

広報アンケート集計結果

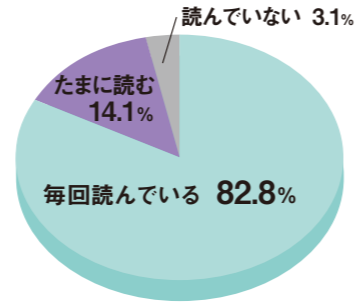
みなさんの声をいかした広報紙へ

今年4月に実施した「広報ふくちについてのアンケート」に、64件の回答が寄せられました。その集計結果と、いただいたご意見の一部を紹介します。



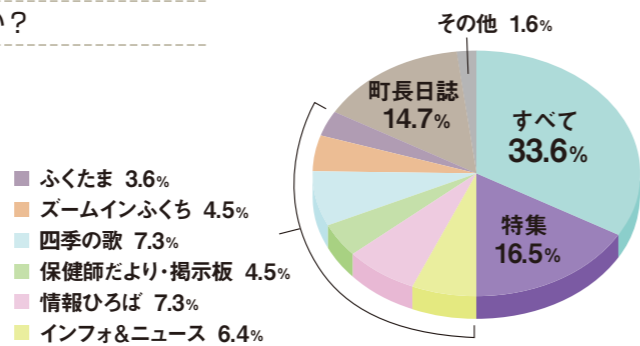
広報ふくちを読んでいますか？

回答していただいた人のほとんどが、広報紙には毎回目をとっているようです。また、町外に住むかたからも「毎月楽しみにしています」という意見が見られました。なお、これはあくまでも回答いただいたかたの集計です。



どのコーナーをよく読みますか？

子育て世代のかたは「保健師だより・保健の掲示板」を選ぶ割合が多いなど、年代によって意見が分かれました。幅広い年齢層のかたが読む広報紙。どのコーナーもそれぞれ必要とされていることが分かります。



そのほか ※自由意見については、広報紙に関するものうち一部を抜粋して掲載しています。

広報紙をとおして知りたいことで多かったのは「各種団体の紹介」でした。また「学校行事」や「活躍している人の紹介」、「財政について」などもあり、いただいたご意見は今後の紙面づくりの参考にしていきます。

* なお、広報紙に掲載したい記事がある場合は、お気軽に役場本庁（☎22-0555）までご連絡ください！

自由意見

- 使い回しのコメントでつまらない(金田・50代)
- 広報紙は町の誇り。特産品だと思います(上野・20代)
- 昔住んでいたのすごく懐かしいです(町外・60代)
- 毎月写真入りで充実した記事を丁寧に読んでいます。4月号で広報の歴史、力を知ることができました(金田・80代)
- 行政の現状を的確に町民に知らせるのは広報の義務。われわれの知る権利を踏みにじらないように(赤池・50代)
- 経費の無駄、役立つものが無い(伊方・60代)
- 字が詰まりすぎているように見える(金田・50代)
- 行事のスナップ写真が楽しみです(市場・60代)
- 昔のほうが良かった(赤池・40代)

アンケート実施期間 ▶ 平成 22 年 4 月 1 日～ 30 日
 アンケート回収方法 ▶ 広報ふくち4月号の「はがき」または「窓口設置回収箱」
 有効回答数 ▶ 64 件 (はがき : 21 件 / 回収箱 : 43 件)

インフォ ニュース

上野焼田中青山さんが西部伝統工芸展で初入賞

第45回西部伝統工芸展の陶芸部門に田中清山さん(上野)が「上野鉄釉肩衝茶入」を出品し、朝日新聞厚生文化事業団賞を受賞しました。指先の感覚を研ぎ澄すために一週間前から準備をして望んだという茶入れづくりは、仕上げは息を止めて一気に行う程の集中力と繊細さを要する作業。「茶陶に対して謙虚な気持で日々精進して、伝統を守りながらも新しいものを生み出していきたい」とこだわりの茶陶への思いを語りました。



↑ 精魂込めて長年手がけてきた茶陶の前に、穏やかな笑みを浮かべる田中さん。

インフォ ニュース

みなさまのおかげで町の広報紙が全国で高評価

5月19日に全国広報コンクール(日本広報協会主催)の結果が発表され、福岡県の代表として推薦されていた「広報ふくちNo.48(2009年12月号)」が、広報紙町村部門で入選3席に選ばれました。さらに住民の視線を生かした編集が優れていると判断された作品(各部門1団体ずつ)に贈られる「読売新聞社賞」も受賞。この結果をとおして、日ごろからご愛読とご協力をいただいているみなさまに深く感謝申し上げます。



← 受賞した広報紙。表彰と副賞の授与式は9月に奈良県で行われます。

【講評】 町に唯一残る金田商店街を取り上げ、その繁栄の歴史から現状、再興への道をまとめている。時代が変わっても変わらない「つながり」をつないでいくことが商店街再興への道、という問題意識に、大いに共感できた。

ふくち まちのお知らせや出来事

インフォ & ニュース

インフォ ニュース

上野小学校が交通安全で県優秀校表彰に初選出

第48回こどもの交通安全大会で、上野小が学童交通安全運動実践優秀校表彰の優秀校に選ばれました。同校は40年以上の分団登下校や、過去5年間の無事故が評価されました。5月26日に児童代表4人が浦田弘二町長に受賞を報告。初めての町長室に緊張していた児童も、「みなさんの日ごろのがんばりが評価された。表彰をきっかけに、いっそうがんばって素晴らしい地域にしてください」と町長に激励され、目を輝かせていました。



↑ 晴れやかな表情の(左から)柴内佑飛くん、熊谷拓哉くん、市川陸くん、沼口桃花さん。

インフォ ニュース

西日本陶芸美術展に初出品の渡仁さんが入選

6月16日から21日まで福岡市で第28回西日本陶芸美術展が開催されました。同展は九州・沖縄・山口各県の在住、出身者を対象とした公募展で、286点の応募から選ばれた渡仁さん(上野)の「上野ヤケ釉壺」が入選。渡さんが、自身の入選以上に「励みになった」と喜んだのが、親交ある作家の入賞でした。「自分もみんなに刺激をあたえられるように、さらに努力を重ねたい」と今後の抱負を述べました。



→ 造形に対して特にこだわり、試行錯誤を重ねてきた「上野ヤケ釉壺」。